

阿部知事と東海旅客鉄道株式会社 丹羽社長とのトップ会談 概要

長野県建設部リニア整備推進局

○日 時：令和6年4月22日（月）15:30～16:30

○会 場：長野県庁3階特別会議室

○出席者：長野県：阿部知事、新田建設部長、室賀リニア整備推進局長、諏訪環境部長、
加藤観光スポーツ部長、青木リニア整備推進局次長

JR東海：丹羽代表取締役社長、宇野代表取締役副社長、水野専務執行役員、
澤田常務執行役員、加藤執行役員

阿部知事挨拶

- ・ JR東海の皆様方にはお忙しいところご足労いただき誠に感謝。日頃からリニア中央新幹線の整備についてご尽力いただいていることについて敬意を表する。また、今回初めてトップ会談についてフルオープンを承諾していただいたことも感謝。
- ・ リニア中央新幹線の開業に向け、大きな期待がある一方で、建設工事の影響に我慢いただいている方も多々いらっしゃる。長野県としても、伊那谷や木曾地域のみならず、県全体の発展のためにも重要なプロジェクトであり、しっかり事業が進められるよう協力したい。
- ・ 一方で地域の皆様の声、要請、願いに県も耳を傾けないといけない。JR東海の皆様もこれまで以上に理解を得ながら事業を進めていただくためにも、地域の方たちとのコミュニケーションにご尽力いただければと思う。
- ・ 開業日時の後ろ倒しについて、非常に地域の皆様方はショックを受けている。県としても地域の皆様方の声を伺っており、後程ご紹介させていただくが、思いを受け止めながら事業を進めていただければと思う。
- ・ 伊那谷地域、木曾地域は、飯田線あるいは中央西線とJR東海管内ということもあり、これらの地域が発展することは県、JR東海も同じ願いであり、責任もって取り組んでいただき、鉄道利用者の幸せの増進のためにご尽力いただきたい。
- ・ 本日は限られた時間ながら率直な意見交換をお願いできればと思う。

丹羽社長挨拶

- ・ 本日はこうした機会を設けていただき感謝申し上げます。日頃から長野県の皆様に多大なご支援をいただき、また、直接、知事と意見交換の場を設けていただき感謝申し上げます。昨年12月、長野県主催で地元市町村長の方々との意見交換会を開催頂き、副社長以下担当役員が出席し、地元のご心配事中心に意見交換させていただいたことについても感謝申し上げます。
- ・ リニア中央新幹線の建設工事全体の状況についてご報告させていただきたい。昨年12月に品川・名古屋間の建設に必要な認可が揃い、全ての工事実施が可能となったことから、静岡工区の状況を踏まえて、品川・名古屋間の各工区の進捗を確認しつつ、全体の工事の進め方を検討してきたところ。

- ・ そうした中、今年3月29日に開催された国の第2回モニタリング会議において、南アルプストンネル静岡工区の事業計画について説明を求められ、これについてご説明する中で、静岡工区が不確実性を伴うトンネル工事の中でも極めて難易度が高く、掘削距離が長いにも関わらず、トンネル掘削工事に着手できないまま、工事契約締結から既に6年4か月が経過していること、また、静岡工区以外の工事でも難しい工事があり、一部で工程が厳しくタイトになっている一方で、未だトンネル掘削工事に着手できていない静岡工区のようなところはないことから、静岡工区が名古屋までの開業時期に直結する遅れとなっており、残念ながら2027年の名古屋までの開業は実現できる状況にないことをご説明したところ。

- ・ 知事からお話があったとおり、早期の開業にご期待を頂いている長野県の皆様大変ご心配おかけしているが、未だ静岡工区のトンネル掘削工事に着手の見込みが立たないため、現時点で新たな開業時期を見通すことができない状況となっている。JR東海としては、引き続き全力で取り組む方針に変わりはなく、静岡工区の1日も早い着手に向けて、地域の方々と双方向のコミュニケーションを大切にしながら真摯に取り組む。

また、今月の4日には、長野県内の「座光寺高架橋ほか新設」の工事発注見通しを公表したが、この工区では、本線高架橋と保守基地のほか、環境対策に関する地域の方々との対話を反映して工事計画をまとめることに時間を要したため、2027年までに工事完了させることは難しく、工期を約70か月と見込んでいる。これは静岡工区の遅れの範囲内であり、名古屋までの開業時期に影響を与えないものとなっている。

- ・ このほか、長野県も含めて静岡工区以外の工事について、一部で工程が厳しく、順調とは言い難いところも出てきている。工事にあたっては、工事用車両の通行など、地元にご負担をおかけしていることは重々承知している。引き続き早期の完成を目指して全力で取り組む方針に変わりはない。

一方で、開業時期に直接影響を与えるのは静岡工区であることから、その他の工事に更に多額の資金や、多くの人手を投入して工期を短縮していくことは難しいと考えており、それぞれの工事の状況に応じて、工期の変更を含めて検討していくが、現状の契約工期を超える場合には、工事に関係する地域の方々と、しっかりとコミュニケーションを取ることが大切だと考えており、その方法についてはしっかりとご相談しながら進めてまいりたい。

- ・ 長野県内では、現在、南アルプストンネル、伊那山地トンネル、中央アルプストンネルにおいて本坑の掘削工事を行うなど、各地で山岳トンネルの掘削工事を進めている。長野県駅については、土曾川橋りょうの橋脚工事にも着手。長野県が進められているリニア駅周辺の道路整備事業や飯田市の駅周辺整備と調整を図りながら、県内の広域の発展につながる新たな拠点となる長野県駅の建設を進めてまいりたい。

引き続き、「工事の安全」、「環境の保全」、「地域の皆様との連携」を重視し、早期の開業を目指して、全力を挙げて取り組むので、長野県をはじめ地元の皆様におかれては、引き続きご支援、ご協力を賜りたくお願いしたい。

阿部知事

- ・ 本日は主に4つの項目で意見交換をお願いしたいと考えている。一点目は早期の品川・名

古屋間の整備及び開業時期の明確化と県内工事の工期について、二点目は工事自体の安全確保と地域とのコミュニケーションについて、三点目は環境への配慮や、発生土及び要対策土の対応、工事車両の運行について、最後は伊那谷、木曾地域の活性化について。

- ・ 先ず、一点目について、これまでに一日も早い品川・名古屋間の開業をお願いしてきたが、2027年の開業断念ということは残念で、これは地元地域も同様に落胆が大きい。開業時期の後ろ倒しは行政のみならず、民間企業や地域の皆さんの取組にも影響が出る。これまで2027年開業を目指して関係者がそれぞれの立場でプロジェクトを進めてきたが、開業時期の変更はそのペースが変わることとなる。是非とも関係する皆さんにはしっかりと今後のスケジュールや開業時期をご説明していただき、理解を得ながら工事を進めていただきたい。
- ・ また、2027年の開業に向けて用地買収に応じていただいた方は、開業を願いながら先祖代々の土地を譲られた方もたくさんおられ、高齢者の方は生存のうちにリニア中央新幹線に乗車できることを楽しみにしていたと聞く。地域の皆様から開業時期の後ろ倒しについては様々ご意見をいただいているが、地域発展に繋がるとのことでご理解いただき、推進にご尽力して頂いた方々もおられる。こうした方たち一人一人の思いがあることは申し上げるまでもないかもしれないが、これに加えて行政としては開業時期の後ろ倒しはまちづくりや、交通政策、観光振興にも影響が出るのが懸念される。一例を申し上げれば、市町村によっては国からの交付金による事業執行を見込んでいたが、開業時期の後ろ倒しにより国との関係の計画にも影響が出る。また、長野県は移住したい県として多くの方を県外からお迎えしており、同様に民間企業も県外から移転、投資をしていただいているが、開業時期の遅れに伴いこれらの面にも影響が出ることは明らか。2027年開業を期待して取り組んだ方への影響も受け止め、これまで以上に地域振興、観光振興に積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ 開業時期の遅れの主因は静岡工区の問題とのことで、関係者で協力して一日も早くその問題を解決し、静岡工区についても着手して、一日も早く開業できるよう全力を挙げて頂きたい。一日も早い開業をと願うのはJR東海の皆さんも同じ思いであると思っているが、それでもなお、地域の皆さんの想いや地域への影響も念頭に置いていただき、対応していただきたい。
- ・ これに関連して、今時点で開業時期の明確化は難しいとのことだが、多くの関係者が2027年の開業を目途に取組を進めてきていたので、次の目標をどうするのかということは切実な課題。早い時期に開業時期を明らかにしていただくことについて、強くお願い申し上げたい。
- ・ もう一つ、開業の関連で県内工事の進捗について、全体の開業時期の遅れに合わせて工期の変更もあり得るとのことだが、県内工事については、県の関連道路整備も基本的にはこれまでどおり進めることから、原則的にはこれまで通りのスケジュールを基本に進めていただければと思う。また、この点については地域の皆様と協議を重ねて進めていただきたい。例えば工事車両の通行による、騒音や通学路の安全の問題の他、観光面への影響等を勘案し、これまで通りの工期で進めて欲しいという声もある一方、地域によっては開業時期の遅れに伴い工期を平準化し、1日あたりの通行車両を減らした方が良いという声もある。県内工事

の工期については、地域の皆様も受け止めは様々であることから、地域の皆さんと協議を重ねていただくことをお願いしたい。地域住民の方の生活面や観光振興など、いろんなところに影響する。聞いている限り、市町村によっては発生土を事業に利用しているところがあるため、工期変更が自分たちの事業スケジュールに影響するとの懸念も出ている。JR東海の皆さんのお立場としての考えはあると思うが、工期変更がどうなるかは地域にとって非常に重要であり、そのことを念頭に置いて今後の調整に当たっていただきたい。今後、県内工期が仮に変更が生じるということであれば、地域の方たちへの説明等、対応を強くお願いしたい。

丹羽社長

- ・ 県内の様々な方のお声を踏まえた知事からのご発言を重く受け止めている。
今回、開業時期の遅れに直結している静岡工区のトンネル掘削工事に未だ着手の見込みが立たないため、現時点で、新たな開業時期を見通すことができない状況だが、地域の方々にご心配をおかけしていることは認識している。リニア中央新幹線の開業に向け、様々なご期待をいただいている一方、工事期間中、地域の方々に工事用車両の通行等でご負担をおかけしていることは重々認識している。
- ・ 長野県の皆様には、大変ご心配をおかけしているが、一日も早く開業したいという思いを私たちは持っているので、そのためにも、静岡工区の着手に向けて、静岡の地域の方々のご理解とご協力が得られるよう、双方向のコミュニケーションをはかりながら、取り組んでいるところである。
たとえば、静岡県とは、これまでも対話を重ねてきているが、今年2月に静岡県から今後対応が必要な事項、というものが示されている。これを踏まえて、実務的な意見交換を頻度高く重ねてきている。
大井川の水資源の課題については、当事者の大井川流域市町の首長とコミュニケーションを深めている。昨年9月に約2年ぶりに大井川流域の8市2町の首長と直接の意見交換を実施。今年の2月にも意見交換を開かせて頂き、その中で、早くボーリング調査を実施することで、地質や湧水の状況がある程度分かってくることになるので、地域の皆様が抱えている不安を解消するためにも、早くボーリング調査を進めてほしいという、前向きなご意見をいただいたところ。
静岡市とは、今月9日に中央新幹線建設事業影響評価協議会で現状認識や今後の検討の進め方について静岡市案が示されたが、今後の検討の進め方の方向性は当社と一致している。引き続き、意見交換を重ねることで、当社の取り組みを充実させていきたいと考えている。以上が、一日も早く静岡工区に着手するための取組みである。
- ・ 長野県内の工事についても知事からコメントをいただいた。沿線自治体の皆様方がリニア中央新幹線の開業に向けた事業を進められていることは、ありがたいことと思っている。一方で、開業が見通せないということで、ご心配をおかけしている。また、繰り返しになるが、地元の皆様に工事によるご負担をおかけしている。現在進めている工事については、引き続き早期の完成を目指して全力で取り組む方針に変わりはない。ただ、トンネルにおいて

は地質の状況が変わってくることもあり、県のご協力を頂いている発生土置き場についてもまだまだ確保していかなければならないなど、様々な課題がある。最大限の努力をする中で、やむを得ず工期の変更が生じる場合には、工事に関係する地域の皆様に、変更することに加え、それに伴いどのような影響があるのか、しっかりと、よくコミュニケーションを取り、ご理解を頂きながら進めたいと考えている。

- ・ コミュニケーションの場面としては色々と考えられるが、具体的には、この先、直近で考えているものとして、今年の6月頃に、大鹿村内の小渋川変電所造成工事の工事説明会を予定しており、この説明会にあわせて大鹿村のトンネル工事の進捗状況や今後の見通しについてご説明する考えである。また、今年の7月頃には、長野県駅工区の本体高架橋部の工事説明会を予定しており、長野県駅工区全体の今後のスケジュールについて、ご説明する考えである。今後も地域の方々とコミュニケーションを取りながら進めていきたい。
- ・ また、知事から工事用車両の運行などについて御懸念があるというお話をいただいた。例えば、交通安全を含め、工事用車両の運行については、交通法規の遵守、運転マナーなどに配慮するよう、工事従事者に対して定期的に指導を行っている。また、運行ルート分散化を図るなど、できるだけ地元の皆様にご負担がかからないよう、取り組んでおり、運行ルートを変更する場合は、事前に関係自治体の皆様にご相談をしたいと考えている。また、たとえば、地域によっては、1日あたりの通行台数を平準化してほしい、という話も頂くこともあり、個別具体的な話も誠実に対応していきたいと思っている。

阿部知事

- ・ 県内工事について地域の皆さんと協議をと申し上げたのは、協議の対象ではないのかもしれないが、地域の皆様の理解と協力、JR東海への信頼があつてこそリニア中央新幹線に関する事業が円滑に進むと確信しており、そのためにも早めにJR東海のを考え方を地域に伝え、理解を得ながら進めていただきたいとの考えから、敢えて強い言い方をさせていただいた。
- ・ 次のテーマ、工事の安全確保と地域の皆様とのコミュニケーションについて、リニア中央新幹線の工事は、安全第一に着実に進めていただくことが重要だと考えている。労働災害等についてはこれまでもお願いをしてきていることで、県や市町村に対する情報提供についても格段に改善していると感じている。今後も工事の進捗に当たっては透明性の担保をお願いしたい。地域の皆様も工事の進捗と安全性の担保については非常に関心が高いこともあり、JR東海もしっかり取り組んでいただいているので、必要な情報発信を行うことが、地域の理解促進に繋がる。地域とのコミュニケーションは、毎回お願いし、これまで応えていただいている。地域のイベントや取組みに参加協力をいただいていると承知しており、引き続き地域とのコミュニケーションを継続的に進めて欲しい。
- ・ その中で特にご検討いただきたいのは、南木曾町と阿智村から、地域の皆様との意思疎通、情報提供がスムーズに進むと思うことから、現地に事務所を置いていただきたいとの意見を頂戴している。こうしたご意見を踏まえた対応をお願いできるとありがたい。これまで人員を増やし、地域にしっかり取り組んでもらっていることは承知しているが、離れている

ところではなく地域に根付いていただく組織を設けていただくことで、地域における御社の信頼感が増し、円滑なコミュニケーションが更に進むと思うことから、今後対応いただきたい。

丹羽社長

- ・ 工事の安全確保については、知事の仰る通り、しっかり取り組んでまいりたい。労災が発生する場合、発注者の立場で施工会社である工事共同企業体に、原因究明と再発防止策を講じるよう指導している。また、長野県だけではなく各地域の施工会社と原因や対策を共有し、関係者含めて安全性を高めるという継続的な取組を行っている。
- ・ 情報提供についてもしっかり取り組んでまいりたい。地域事務所の設置について、南木曾町、阿智村からのご意見を伺ったが、工事を進めるに当たって地域の皆様とのコミュニケーションを取り、信頼関係を構築することは非常に重要と考えている。この点については、中央新幹線推進本部を組織し、現地事務所が主体となって取り組んでいる。具体的には、飯田市に設置している長野工事事務所を中心に、広域にわたる様々な自治体や、地域の皆様としっかりとコミュニケーションを取るということで進めていきたいと考えている。拠点に人を集約しておくことで、機動性や柔軟性ができると考えている。弊社では9年前、常駐者が4名だったところが今は36名の体制に拡充している。阿智村、南木曾町も含めて広域にわたる様々なコミュニケーションをしていきたいと考えている。このような地域には連携強化のため、月1回の定例打合せや、概ね週2回以上は当社社員がお伺いし、地元の方と様々な形で信頼関係を構築できるよう努めている。今後とも、地域の方々のご意見をしっかりと受け止める姿勢で、取り組みたい。

阿部知事

- ・ 引き続き地域の皆さんの声を聞き取り、進めて欲しい。
- ・ 次に三点目の環境関連について、一つは水資源や生態系、自然環境や住環境、景観への影響の回避・低減についてはこれまでお願いしてきたところ。環境影響評価書で示した環境保全措置を確実に遂行していただきたい。静岡県への対応に気を取られて長野県への対応が手薄になるということはないと思うが、JR東海の持つ高い技術で最善の対応をお願いしたい。
- ・ 長野県では、ゼロカーボン戦略において2030年時点で基準年度から6割のカーボン排出量削減という目標を掲げており、今後更なる再エネの導入、省エネの実現に向けた推進をお願いしたい。特に長野県駅については、地元の飯田市からも太陽光パネルの設置をお願いしており、県産材の利活用など、ゼロカーボンに資する取組に対して前向きにご協力をお願いしたい。
- ・ 発生土について、これまでもお願いしてきており、その内容について着実に対応いただいていることに感謝。他方、まだ発生土置き場が決まっていない箇所や、地域の不安の声もあることは事実であり、管理も含め安全性の確保をお願いしたい。県としても盛土条例を作ったこともあり、責任を持って対応していきたいと考えている。
- ・ 要対策土について、地元の方と協議し、施工後もモニタリング調査や情報提供を行い、安

全安心の担保を徹底して欲しい。環境影響評価準備書についての知事意見に対して、管理型処分場への搬入等が事業者見解となっているため、変更するなら環境影響評価技術委員会に報告するなど、しっかりと行っていただきたい。

- ・ 工事車両については既に回答いただいているが、生活環境に影響が生じる問題でもあり、工期変更等の場合には地域の皆様へ情報提供を行っていただくとともに、影響軽減に向けた対応をお願いしたい。運搬路の維持管理や補修については、県あるいは市町村と確認書を交わしているため、それを踏まえて確実に対応していただきたい。

丹羽社長

- ・ 自然環境の取組については、静岡県も心配しているところではあるが、長野県もしっかりと対応していきたい。
ゼロカーボンに関する長野県駅での具体的な対応について、飯田市からのご要望は承知しているので、駅のデザインも含め、全般的な話ではあるが、ぜひ、具体的なご検討案を飯田市さんから頂きながら、調整させて頂きたい。
- ・ 発生土については、引き続き安全性を確保しつつ適切に進めたい。
- ・ 要対策土についても、施工後も含めて、地域の皆様に安心していただけるよう、専門家のご助言や国のマニュアルを踏まえ安全性を確保して進めていきたい。
- ・ 工事用車両についても、しっかりと地元の方々の理解を頂きながら、負担を低減できるように取り組んでいきたい。

阿部知事

- ・ 最後に、地域活性化について。この点はこれからの事業全体の進捗と関連する話で、未来に向けた話である。JR東海の皆様にとっても、路線沿線地域の発展はプラスだと思う。長野県の場合は、長野県駅を中心とする伊那谷地域だけではなく、木曾地域は岐阜県駅を利用することが見込まれ、同様に諏訪地域は山梨県駅を利用される。リニア中央新幹線開業後、長野県においてはプラスの影響を受ける地域が多いと見込んでいる。その中で、長野県駅を中心とした伊那谷や木曾地域の活性化に向けて、JRグループ全体でしっかりお取り組みをお願いしたい。この点は強調しておきたい。
- ・ 工事車両で影響を受けている地域の方たちには配慮していただいているが、是非とも地域の皆さんに暖かい目を向けていただき取り組んでほしい。今回開業時期の延期に伴い地域に影響が出るということで、これまで以上に幅広い取組を通じ、地域で元気になる取組を主体的に考え、実行していただきたい。
- ・ 我々もリニア中央新幹線の話に限らず、JR東海にはお願い、提案をしてきている。観光プロモーションやMa a S、交通ICカードの利用範囲拡大、駅へのエレベーターや街灯の設置など、JR東海のお取り組みで進むことが多いので、これまで以上に積極的をお願いしたい。この他、リニア中央新幹線の開業に伴い期待される二地域居住の推進に向け、例えば名古屋と長野の割引運賃などの検討をお願いしたい。
- ・ 開業後の地域振興の検討については、JR東海と連携して進めるとともに、関係府省等会

議において、リニア中間駅を中心に地域の特性を生かした実証都市圏域の確立をと長野県から提案しているのはご案内のとおり。これは、交流圏の形成や、信州大学と連携して取り組むアクア・リジェネレーション構想の推進、航空宇宙特区の加速化や、フォレストバレーを通じた林業人材育成、環境先進地域の拠点化などをパッケージにして国に提言しているが、こうした取組の実現にはJR東海の協力が不可欠だと思っている。持続可能な環境共生先進地域あるいは豊かな自然環境と独自の文化を活用した教育・学びの先進地域づくり、こうしたことを掲げて実証都市圏域づくりを進めていきたいので、我々の考え方、構想を共有したいと思うので、一緒になって取り組んでいただきたい。

- ・ そのためにも、停車本数の問題は是非とも検討をお願いしたい。これまで、上下線とも1時間に1本以上の停車をお願いしてきたが、中間駅を最大限生かすためには複数本の停車をお願いしたいと思う。また、リニア中央新幹線のダイヤは開業直前まで決まらないとのことだが、どういう街をつくるか、どういう構想を描くか、ということになると、ぜひ基本的な考え方をお示しいただき、こういう停車本数で取り組むということを事前にお伝えいただければ我々の取組にも弾みが付く。
- ・ 駅デザインをどうするか、駅舎の在り方、在来線との接続について、これらについても重要な課題でもあり、地域の方たちの思いに向き合ってください、真摯に取り組んでいただきたい。
- ・ また、こういったことを進めるにあたっては、JR東海の中で、国も中間駅を何とかしていこう、という方向になっているので、ぜひ地域振興の専門的な部署を設けていただき、地域と向き合ってください。専門部署の方には、地域の取組への協力をお願いするとともに、沿線地域の発展に向けた将来ビジョンを主体的に描いていただき、地域活性化に努めていただきたい。これは直接社長の頭に入れていただきたいと考えているもので、強調してお願い申し上げたい。

丹羽社長

- ・ 停車本数について、開業が少し先になってしまうということで、実際に中央線新幹線の輸送体系を決めていくのは、もう少し先になる。長野県駅を含めた、各駅の停車本数についても、開業時期の経済情勢や、他の輸送機関の状況、駅周辺の開発状況、ご利用者数、そういった見込み等も踏まえて、もう少し開業時期が近付いた時点で決定していくと考えている。それに向けて地域の皆さまが駅予定地の周辺をはじめ、広域にわたる発展に向けたお考え、お取組みを講じていることは承知しており、私共もぜひ、地域の発展、広域的な発展について、力を尽くしていきたい。
- ・ 関係府省等会議については私どもも参画しており、その議論や本日頂いた長野県のご提案事項も内容を拝見させていただいている。このように前向きにいろんなことに取り組まれていることに、改めて感謝申し上げます。また、当社の役割をしっかりと果たしていきたいと考えている。
- ・ 地域振興、まちづくりについての連携、ご協力について、社内において様々な関係部署がある。そうした部署の力を結集して取り組んでいきたい。既に観光担当部局の皆様と、私ど

もの担当者が色々と意見交換をさせていただいており、ウォーキングイベントや、地元の特産品をご紹介させて頂く、という形でお客様に喜んで頂けるような様々な取り組みを行っているところである。これに限らず、開業前、開業後に向けた取り組みについても、しっかりと力を尽くしていきたい。

阿部知事

- ・ 前半は課題の共有をさせていただき、丹羽社長と私とは立場が違うので、どちらかと言うと同じ方向を向くというよりは、互いに違う立場から問題に向き合うという感覚であると思うが、その一方で地域をどう発展させるかということについて、私は鉄道事業者の経営者になったことはないので、お気持ちは分からないところがあるが、沿線地域が元気になっていくことはお互いにとってプラス。地域活性化や地域振興の実現に向けてJR東海と同じ方向を向き、手を取り合って地域発展のために注力することが必要。そうした方向性をお示しいただくことで、地域における事業全体の理解も深まるのではないかと。
- ・ 今日、いきなりお願いをしたので、すぐ前向きに、ということを目指すも期待しているわけではない。事業期間が延期されたこともあり、腰を据えて長野県駅を基点とした地域活性化の実現に向け、今後ともよろしくをお願いしたい。

丹羽社長

- ・ 本日は忌憚のない意見交換をさせていただき感謝申し上げます。また、長野県の皆様にはこれまで様々な形でご支援、ご協力いただき感謝申し上げます。弊社としては地域の皆様とのコミュニケーションをしっかりと重視しながら、早期開業に向け、全力を尽くして取り組む所存であり、引き続き御支援をお願いしたい。本日はありがとうございました。

(以上)